

横浜学

ブラントンとパーマーの業績を通して見る港都横浜の近代化

講座内容

日本の近代化に貢献した二人のお雇い外国人ブラントン(Richard Henry Brunton)とパーマー (Henry Spencer Palmer)を介して、港都横浜の近代都市の誕生にフォーカスをあてた港都横浜論。

期 間	10月7日～11月25日	受講料	10,000円
曜 日	火曜日	定 員	40名 ※最少催行人数 17名
時 間	13:30～15:30	会 場	横浜・関内キャンパス
回 数	全8回	持ち物	筆記用具
教 材	講師が毎回配布資料を用意します。		
備 考	●この講座は9月29日(月)までに中止の連絡が無ければ開催となります。		

講座スケジュール

回数	日 程	内 容	担当講師
1	10月 7日 (火)	英国でのブラントンは鉄道技師 —彼は訪日にあたって『ジキル博士とハイド氏』の著者ステイブンソンの父に手解きを受け俄灯台技師に変身—	小林 照夫
2	10月14日 (火)	横浜は「日本の灯台の父」ブラントンの活動拠点 —燈明台役所内には技術者養成所も—	小林 照夫
3	10月21日 (火)	「慶応の大火」(通称、「豚屋火事」)後の横浜 —山手と山下の居留地の境界域に横浜の一つの文化拠点元町商店街誕生の史的経緯—	小林 照夫
4	10月28日 (火)	ブラントンは横浜の近代的都市づくりのプランナー —ご存知でしたか? 「日本大通」は防災道路、その周辺は近代的消防発祥の地—	和泉 禮子 小林 照夫
5	11月 4日 (火)	「港崎遊郭」跡地にパーマー設計の「彼我公園」(現在の「横浜公園」の地)が —公園建設の史的経緯とそこで展開した西洋スポーツ—	権田 益美 小林 照夫
6	11月11日 (火)	パーマーと横浜の水道 —開港場横浜の井戸水には海水が混入。飲料水を水売りから買い求めた横浜での水道水の道のり—	小林 照夫
7	11月18日 (火)	蘭英のお雇い外国人の横浜港建設論争 —最終的にパーマーの港湾築港論を採用—	小林 照夫
8	11月25日 (火)	パーマーの横浜築港に見る港内のドライドック論 —港内に造船所を有し世界の港として発展したそんな横浜港の史的側面にアプローチ—	佐藤 勝久 小林 照夫

講師紹介



小林 照夫(こばやし てるお)

本学名誉教授
博士(社会学)。元日本港湾経済学会会長。本講座に関連した書物としては、小林照夫「港の歴史—その理念と現実」(成山堂書店)、小林照夫「巨大都市と横浜の漁礁集落—横浜のウォーターフロント」(成山堂書店)、小林照夫・山上徹監修「経済社会と港湾」(現代港湾史リース I)パールロード。小林の他の関連著書についてはウィキペディア小林照夫の項を参照ください。



権田 益美(ごんだ ますみ)

本学国際文化学部非常勤講師
博士(文学)。本講座に関連した権田の論稿としては、関東学院大学紀要「KGU比較文化論集」第14号所収「横浜における日本最初の西洋式公園の誕生：「彼我公園」「山手公園」建築と利用に関する同一性と異質性」があります。



和泉 禮子(いずみ れいこ)

防災研究家
現在、『防災拠点ニュース』編集長、横浜市立東希望が丘小学校地域防災拠点委員長、NPO法人日本防災環境理事等を務める。2025年3月、「被災地訪問から学んだ避難所運営の実情や課題を把握し女性目線で性別役割分担の解消に取り組んだ」として「横浜市男女共同参画貢献表彰」の功労賞を受賞。



佐藤 勝久(さとう かつひさ)

歴史愛好家
三菱重工で船舶、発電プラント等の海外ビジネスに従事。定年退職後、幕末・明治期の歴史を中心に調査・研究中。